

□ 書評 □

編集 亀山正邦・亀田治男・高久史磨・阿部令彦

今日の診断指針(第4版)

多須賀幸男

(多須賀消化器科・内科クリニック)

編集責任者をすべて入れ替え、若い医師を執筆者に選び、項目も再検討して5年ぶりに全面改訂された「今日の診断指針」(第4版)の書評を依頼された。広辞苑にほぼ匹敵するボリュームを持つこの大著を手にとって、その姉妹編である「今日の治療指針」の編集に携わる1人として、充実した内容に大げさではなく驚嘆した。膨大な内容を紹介するのは容易ではないが、診療しながらいろいろの頁を開いて得た印象を率直に書いてみる。

全科の病気を対象とするこの種の書物は内科系疾患に偏りがちであるが、本書は前からその他の領域に多くの紙数を割いて来た。第4版ではそれが一層進んで、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科などの疾患について、それぞれの専門学会の診断基準や分類まで踏み込んで記載している。さまざまな病気の相談を受け、あらゆる科からの診療情報書を頂く開業医にとってまことに有り難い。総合病院の研修医や医師には学際的知識がさらに必要なはずで、どの診療の場でも一度備えると手放せなくなるに違いない。

本書にはかねてから巧みな見出しが付けられていて、門外漢にも肝腎なところが分かりやすかった。第4版ではそれがますます洗練されている。おそらく編集責任者が最も意をつくした部分であり、診療に実際

従事している第1線の若い医師がそれに応えてうまく執筆している。「なかなか診断できないとき試みる」とか、「さらに知っておくと役立つこと」などの記述は出色である。

診断指針第4版にはシェーマやカラー写真の他、CTやMRIなどの最新画像が非常に多数掲載されている。馴染みがなかった他科の画像と解説に、筆者は特に新鮮な印象を受けた。

遺伝子診断や分子医学領域の最新情報の収載を心がけたと序文にあるが、その結果、稀れで特殊な病気や病態についての記述がとりわけ充実した。項目数はほとんど変わっていないが「鑑別診断すべき疾患と鑑別のポイント」などの説明が掘げられて、ここにもその最新情報が詰まっている。研修医や若いドクターには特に歓迎されるに違いない。編集部は苦労したであろうが、こまめに参照頁を記入する行き届いた配慮が本書の価値を高めている。

検査の基準値一覧の部は42頁から130余頁に大幅に増えて、その充実ぶりには目を見張らざるを得ない。これほど多数の項目の基準値を蒐集された担当者の苦勞がしのばれる労作である。

膨大な最新情報を詰め込んだ2,000余頁の本を手に入れば、消費税抜きで23,000円の定価が決して高価でないと分かつ。机上の医学図書館として、すべての診療所、医局、病棟、研究室に是非備えるようお薦めする。

(デスク版: B5 頁2000 図282 写真840 カラー写真425 原色図5 表721 定価23,000+税 千700 1997, ポケット版: B6 定価18,000+税 千400 1997, 医学書院・刊)